

## 詩篇71-74篇 「弱くされても」

### 1A 年老いてからの賛美 71

1B 若い頃からの望み 1-13

2B 年老いた時の使命 14-21

3B 賛美への集中 22-24

### 2A 神の義による支配 72

1B 公正なさばき 1-8

2B 国々への支配 9-20

### 3A 悪者の栄え 73

1B すべる歩み 1-16

1C 悪者への妬み 1-12

2C 空しい奉仕 13-16

2B 聖所から見る最後 17-28

1C 突如の滅び 17-20

2C 終わりの栄光 21-28

### 4A 聖所荒らし 74

1B 贖われた民の虐げ 1-11

2B 昔における私の王 12-23

## 本文

詩篇 71 篇を開いてください、今日は詩篇の第二巻の最後の二篇と、第三巻の最初の二篇を読みます。第二巻の最後の二篇は、ダビデが年老いた時に歌ったと思われる詩篇です。

### 1A 年老いてからの賛美 71

71 篇です。この詩篇は「老人の祈り」とも呼ばれています。ダビデが年老いた時に祈ったものと思われる。題名はないのですが、おそらく70 篇に続く詩篇としてここに載っているのではないかと思われます。何よりも、ここに出てくる数々の表現が、いかにもダビデらしい、他の詩篇に見ることのできるものだからです。

#### 1B 若い頃からの望み 1-13

71:1 主よ。私はあなたに身を避けています。私が決して恥を見ないようにしてください。71:2 あなたの義によって、私を救い出し、私を助け出してください。あなたの耳を私に傾け、私をお救いください。71:3 私の住まいの岩となり、強いとりでとなって、私を救ってください。あなたこそ私の巖、私のとりでです。

ダビデは、若い時から苦しみに遭っていましたが、それは彼の晩年においてもそうでした。イスラエルの国はアブシャロムのクーデターがありましたが、彼が老衰している時にも、何と自分の息子の一人が、王位を奪い取ろうとしました。王はソロモンを後継者に定めていましたが、アドニヤが私が王になろう、と言ったのです。そして、彼に与する者は、祭司エルアザル、将軍ヨアブもいたのだ、これは大きな危機でした。おそらく、彼がその時に祈ったものではないかと思われる。

この詩篇で何度も出てくる言葉は、「あなたの義」であります。神の義によってダビデを救ってくださいとお願いしています。彼の若い時は、サウルから追われている時は、私の義によって報いてくださいと祈っていました。彼が主に心から従っていたので、その意味で公正な裁きを求めたダビデには偽りはなかったのですが、しかし彼は年を経て、数々の過ちを犯して、おそらくこの境地に達したのだと思います。自分の正しさではなく、神が正しいお方だから、そして神が一方的に私を憐れみ、愛し、それで救ってくださるのだと知ったのでしょう。

71:4 わが神よ。私を悪者の手から助け出してください。不正をする者や残虐な者の手からも。  
71:5 神なる主よ。あなたは、私の若いころからの私の望み、私の信頼の的でした。71:6 私は生まれたときから、あなたにいだかれています。あなたは私を母の胎から取り上げた方。私はいつもあなたを賛美しています。

今、ダビデは若い時のことを思い出しています。勇敢に獣と戦い、そしてペリシテ人ゴリヤテをやっつけ、それから戦いにはことごとく勝利をもたらしました。それは、主が若い彼にとって望みであったし、信頼の的だったのです。

そして、自分が誕生することはすべて神の御手によるものであり、その命はすべて神に抛り頼んでいることを知っていました。また彼は生まれた時から、神が選びの手を動かしておられたことも知っていました。だから、自分が何か成し遂げたから救われたのではなく、もっぱら神に抱かれて救いを得ていたのだと知りました。彼は、詩篇 22 篇 9-10 節でこう言いました。「しかし、あなたは私を母の胎から取り出した方。母の乳房に抛り頼ませた方。生まれる前から、私はあなたに、ゆだねられました。母の胎内にいた時から、あなたは私の神です。」実はこの御言葉は、母親が私に誕生日祝いでくれた御言葉です。私にとっては、とても新鮮でした。母は、私を産んだ時はイエス様を信じていませんでした。大抵の母親は、「この子は私の分身」という態度で、息子を育てます。しかし、母親はあくまでも自分の体は器であり、神ご自身に抱かれていたのだという信仰告白であります。私がおかしいということではなく、神が私を選んでくださり、召して下さって今の自分がいるのだと感じました。

71:7 私は多くの人にとっては奇蹟と思われました。あなたが、私の力強い避け所だからです。  
71:8 私の口には一日中、あなたの賛美と、あなたの光栄が満ちています。

ゴリヤテを倒したのは、多くの人にとっては奇蹟と思われました。このようにして、ダビデは主への賛美に満たされています。けれども、若い時だけでなく年老いた時も同じようにしてください、というのがこの詩篇の内容です。

71:9 年老いた時も、私を見放さないでください。私の力の衰え果てたとき、私を見捨てないでください。71:10 私の敵が私のことを話し合い、私のいのちをつけねらう者どもが共にたくらんでいるからです。71:11 彼らはこう言っています。「神は彼を見捨てたのだ。追いかけて、彼を捕えよ。救い出す者はいないから。」71:12 神よ。私から遠く離れないでください。わが神よ。急いで私を助けてください。71:13 私をなじる者どもが恥を見、消えうせますように。私を痛めつけようとする者どもが、そしりと侮辱で、おおわれますように。

ダビデはアドニヤの謀反を聞いても、寝床から起き上がって指示を与えることぐらいしかできませんでした、けれどもその弱さの中でも主が私を助けてくださるようにと祈っています。年を取った人がダビデと同じように感じることもあるかもしれません。自分の体が思うように動かない。だから、かつて自分が神に用いられたようには用いられることはできない、と覚悟があるかもしれません。また、老人の体力の低下を巧みに利用して、自分の個人的な利得を求める輩が自分の周りに出てくるかもしれません。けれども、同じように助けて、敵を捕えてくださいと祈っています。

## 2B 年老いた時の使命 14-21

71:14 しかし、私自身は絶えずあなたを待ち望み、いよいよ切に、あなたを賛美しましょう。71:15 私の口は一日中、あなたの義と、あなたの救いを語り上げましょう。私は、その全部を知ってはおりませんが。71:16 神なる主よ。私は、あなたの大能のわざを携えて行き、あなたの義を、ただあなただけを心に留めましょう。

神のみの義だけを心に留めましょう、と言っています。自分が何かすることではなく、主をただ待ち望み、主がしてくださることに目を留めます。そして、ただ神の義だけを見つめ、それで自分が救われるというダビデの言葉が、後に使徒パウロが教えた「信仰による義」であります。「ローマ 1:16-17 私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる。」と書いてあるとおりです。」

71:17 神よ。あなたは、私の若いころから、私を教えてくださいました。私は今もなお、あなたの奇しいわざを告げ知らせています。

ダビデは自分が若かったことの事を思い出し新たにされて、同じように、今もあなたに抛り頼む、と言っています。主はエペソにある教会に対して、「あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い

改めて、初めの行ないをしなさい。(黙示 1:5)」と言って、叱られました。私たちは信仰の年数を経ると、信仰のマンネリ化を引き起こす危険があります。初めは必死になって主に信頼して、その結果、神さまによっていろいろな御業を見せていただいていたのに、そのことを忘れて、このようにやっておけばクリスチャン生活は安泰だ、という過信に陥ります。だから、初めの愛、若いときの主への信頼を思い出す必要があるのです。

71:18 年老いて、しらがになっても、神よ、私を捨てないでください。私はなおも、あなたの力を次の世代に、あなたの大能のわざを、後に来るすべての者に告知させます。

これは年を取った信仰者だからこそできる働きです。年老いたから何もできないのではなく、次の世代に、神のことを教える働きは彼らしかできません。モーセが申命記を書き記し、その働きを行いました。ヨシュアに引き継がれ、神の働きは続きました。ダビデがソロモンに教えて、ソロモンは神の知恵によって国を治めました。パウロがテモテを教えました。次の世代に伝えるのです。

71:19 神よ。あなたの義は天にまで届きます。あなたは大きいなることをなさいました。神よ。だれが、あなたと比べられましょうか。71:20 あなたは私を多くの苦しみと悩みとに、合わせなさいましたが、私を再び生き返らせ、地の深みから、再び私を引き上げてくださいます。71:21 あなたが私の偉大さを増し、ふり向いて私を慰めてくださいますように。

すばらしい告白です、神の義は天にまで届くというのは、イエス・キリストの義によって私たちも天に引き上げられることができるのだということです。そして、彼は復活の希望を告白しています。年老いても、自分は陰府から引き上げられる、墓から出てきてよみがえると告白しています。

### 3B 賛美への集中 22-24

71:22 私もまた、六弦の立琴をもって、あなたをほめたたえます。わが神よ。あなたのまことを。イスラエルの聖なる方よ。私は、立琴をもって、あなたにほめ歌を歌います。71:23 私があなたにほめ歌を歌うとき、私のくちびるは、高らかに歌います。また、あなたが贖い出された私のたましいも。71:24 私の舌もまた、一日中、あなたの義を言い表わしましょう。それは彼らが恥を見、私を痛めつけようとする者どもがはずかしめを受けるからです。

私たちが信仰の戦いの中にいる時に、一日中賛美するという姿勢はとても大切です。その敵については、主に裁いていただき、自分自身は主をほめたたえるのです。そして、敵が恥を見ます。ネヘミヤ記にて、周囲の住民がネヘミヤとユダヤ人たちに嫌がらせをしましたが、城壁の再建が完成した時、「みな恐れ、大いに面目を失った。この工事が神によってなされたことを知ったからである。(ネヘミヤ 6:16)」とあります。エルサレムのホロコースト記念館、ヤド・バシェムで、殺された子供たちの記念館を出たところに、新しいユダヤ人たちの居住区が丘の上に見えるところがあります。ユダヤ人ガイドがこう言いました。「これが私たちの復讐です。」つまり、子供を殺されたから

ドイツに行って子供を殺すのではなく、立派に生きることによって敵の面目を潰すのです。

## 2A 神の義による支配 72

### 72 ソロモンによる

ここの題名は英語の欽定訳では、Psalm for Solomon となっていて、「ソロモンのための詩歌」になっています。なぜなら、詩篇の内容を読むとダビデが自分の世継ぎの子ソロモンのことを思って祈っている内容になっているからです。そして72篇の最後には、「エッセイの子ダビデの祈りは終わった」とあります。だからダビデが祈ったものなのですが、おそらくソロモンが後で自分のものとして編集したのでしょう。ですからこれが、ダビデの最後の最後の祈りになります。彼が最後の最後まで、自分の王位を脅かされていましたが、神はそれらの苦難から彼を救い出し、今、ソロモンに王位を継承できるようになりました。

そして、ソロモンのための祈りを捧げつつ、ダビデは神の約束を思って祈っていました。それは世継ぎの子が、とこしえの王座に着くということです(2サムエル 7:12)。ソロモンを越えて、キリストの御国を思いながら彼は祈ったのでした。

### 1B 公正なさばき 1-8

72:1 神よ。あなたの公正を王に、あなたの義を王の子に授けてください。72:2 彼があなたの民を義をもって、あなたの、悩む者たちを公正をもってさばきますように。

ダビデが自分の王朝に求めていたものは、公正です。神の公正と神の義をもって王が国を治めるように願いました。王の判断が、神の判断を反映したものになるように願いました。これは上に立つ人が、だれもが求めなければいけない祈りですね。コロサイ書4章には、主人が、自分たちの上にも主がおられることを知っているのだから、奴隷にも正義と公平を示しなさい、という勧めがあります(1節)。

そして、神の公正は、悩む者たちに向けられます。二人の女がソロモンのところにやってきました。二人は同じところに住んでいます。一人の女に赤ちゃんが生まれました。三日後にもう一人の女に赤ちゃんが生まれました。ところが、夜の間にこの赤ちゃんが一人死にました。その女が赤ちゃんを寝ている間に押しつぶしてしまったからです。そしてこの女は、もう一人の女の赤ちゃんを取って、自分の赤ちゃんだと言っている、と主張しています。二人とも、これは自分の赤ちゃんだと言いました。そこでソロモンは、剣でその赤ちゃんを二つに切って、半分を一人の女に、半分をもう一人の女に与えなさい、と言いました。一人の女は、「どうぞそうしてください。」と言いましたが、もう一人の女は、「どうか、その子をあの女にあげてください。殺さないでください。」と言いました。それでソロモンは、「その子をあの女にあげてください。」と言ったほうが本当の母親である、と言いました。その悩んだ女のほうに、真実があると見抜いたのです。私たちは、悩むということ避ける時代に

生きています。しかし、神はむしろ悩む者に心と留められます。

72:3 山々、丘々は義によって、民に平和をもたらしますように。72:4 彼が民の悩む者たちを弁護し、貧しい者の子らを救い、しいたげる者どもを、打ち砕きますように。

エルサレムに王座がありました、そこから見えるのは山々と丘々です。ユダヤ山地にあるからです。けれども、そこにいる人々が平和に満たされることを祈ります。それは正義によってもたらされます。イザヤ書には、正義と平和は一對で語られます。イエス様の預言についてこうあります。「イザヤ 9:7 その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に着いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。」正義とは、正しい関係のことです。神との正しい関係もあり、人と人との正しい関係です。それが確立している時に、私たちの間に平和があります。

そして、その義に従えば、民の貧しい者を救うべく働きます。しかし、残念なことにソロモンの晩年はその正義から離れていました。民に重税を課したのです。したがって、この約束はソロモンではなく、キリストにあって成就します。

72:5 彼らが、日と月の続くかぎり、代々にわたって、あなたを恐れますように。72:6 彼は牧草地に降る雨のように、地を潤す夕立のように下って来る。72:7 彼の代に正しい者が栄え、月のなくなるまで、豊かな平和がありますように。72:8 彼は海から海に至るまで、また、川から地の果て果てに至るまで統べ治めますように。

日と月の続く限り、月のなくなるときまで、・・・といったら永遠を意味しています。そして、海から海まで、川から地の果てまで、というのは全世界のことです。したがって、これはキリストの御国なのです。先ほど、ダビデが、自分がよみがえるのだという告白をしました。復活して受け継ぐ国とは、この地上における神の国のことを考えています。

## 2B 国々への支配 9-20

72:9 荒野の民は彼の前にひざをつき、彼の敵はちりをなめますように。72:10 タルシシュと島々の王たちは贈り物をささげ、シェバとセバの王たちは、みつぎを納めましょう。72:11 こうして、すべての王が彼にひれ伏し、すべての国々が彼に仕えましょう。72:12 これは、彼が、助けを叫び求める貧しい者や、助ける人のない悩む者を救い出すからです。72:13 彼は、弱っている者や貧しい者をあわれみ、貧しい者たちのいのちを救います。72:14 彼はしいたげと暴虐とから、彼らのいのちを贖い出し、彼らの血は彼の目に尊ばれましょう。

荒野の民、とは、エドムとかモアブとか、イスラエルを事あるごとに攻めてきた敵どもです。タルシシュは、スペインのことですが、ヨーロッパ全域と考えてもいいでしょう。シェバとセバはアラビア半

島南部の国です。ソロモンに、シェバの女王が貢ぎ物を持ってきました。なぜそれらの国々が屈服し、あるいは貢物を持ってくるのか？それは、神の公正、貧しい者たちへの憐れみが、それらの国々も広がるためです。それらの国々では貧しい人々、悩む人々が虐げられたままになっています。彼らを解放するために、これらの強い権威を従わせるのです。これは、キリストの御国で実現します。

72:15 それゆえ、彼が生きながらえ、彼にシェバの黄金がささげられますように。彼のためにいつも彼らは祈り、一日中、彼をほめたたえますように。72:16 地では、山々の頂に穀物が豊かにあり、その実りはレバノンのように豊かで、町の人々は地の青草のように栄えますように。72:17 彼の名はとこしえに続き、その名は日の照るかぎり、いや増し、人々は彼によって祝福され、すべての国々は彼をほめたたえますように。

王が悩む者、貧しい者に正義を行なうので、世界中からほめたたえられ、富み、祝福を受けます。

72:18 ほむべきかな。神、主、イスラエルの神。ただ、主ひとり、奇しいわざを行なう。72:19 とこしえに、ほむべきかな。その栄光の御名。その栄光は地に満ちわたれ。アーメン。アーメン。72:20 エッサイの子ダビデの祈りは終わった。

第一巻も「アーメン。アーメン。」で終わりましたが、ここも同じです。これが、イエス様が、弟子たちに「御国が来ますように。」と祈りなさいと言われた、その御国です。そして、「神の国とその義をまず求めなさい。」と言われた、神の国の正義です。だから、私たちは希望を持って、この国に入ることができるよう、人々にキリストを紹介します。

### **3A 悪者の栄え 73**

今日の学びから詩篇の新しい部分、第三巻に入ります。第一巻や第二巻においては、ダビデの祈りが詩篇の多くを占めていましたが、第三巻ではアサフによる賛歌が多くあります。アサフは、ダビデが礼拝における賛美のために任命したレビ人の中の一人です。その後アサフの子孫が、礼拝の賛美を導くようになります。

第二巻では、ダビデの生前の出来事が主な背景でした。サウルに追われているときにいのちの祈りであるとか、アブシャロムの反逆であるとか、ダビデがまだ生きている時のことです。第二巻の終わりである第 72 篇は、ソロモンのためにダビデがいのちの祈りで終わりました。第三巻の背景はその後の出来事です。ソロモンの家来であったヤロブアムは、ソロモンから逃亡していたエジプトから戻ってきました。そしてソロモンの子レハブアムに、ソロモンが重税を課していたけれども、それを和らげてほしいとお願いした。けれどもレハブアムはまだ若く、彼は同じ意見を持っていた長老たちの意見ではなく、他の若者の意見を取り入れました。厳しい態度で臨まなければいけないと。それで分裂が起こりました。ヤロブアムを王とするイスラエル十部族と、南のユダ国に分か

れたのです。そしてそれぞれの国がしだいに弱くなっていきました。主に従わない王が出てくるにつれて、周囲の敵に敗北し、ついに北イスラエルはアッシリヤの前に倒れ、南ユダはバビロンによって倒れました。これが第三巻にある詩篇の背景です。

イスラエルの国の興亡の歴史を読めば、それは私たち個人の信仰の歩み、また教会としての歩みとの共通項を見出すことができます。主によって懲らしめられ、弱くなったイスラエルの国は、主に懲らしめられ、弱くなった私たちに似ています。その中でどのように主に立ち返り、また主がどのように私たちに顧みてくださるのかを知ることができます。

### 73 アサフの賛歌

午前中お話ししたように、73 篇は、礼拝賛美を導くアサフにふさわしい、私たちの礼拝がもたらす祝福について書いてある詩篇です。17 節が大きな区切りです。「私は、神の聖所に入り」とありますね。神の聖所に入る前のアサフの悩みと苦しみが前半部分、1 節から 16 節までに書いてあります。そして聖所に入って分かったこと、新しい見方について書いてあります。

#### 1B すべる歩み 1-16

#### 1C 悪者への妬み 1-12

73:1 まことに神は、イスラエルに、心のきよい人たちに、いつくしみ深い。73:2 しかし、私自身は、この足がたわみそうで、私の歩みは、すべるばかりだった。73:3 それは、私が誇り高ぶる者をねたみ、悪者の栄えるのを見たからである。

心の清い人たちには、神が慈しみ深いとあります。この清さは、主の近くにいることによって保つことができます。けれども、そこから、滑り出してしまうような世界に私たちはいつも取り囲まれています。いったん、そこから出てしまうと、つまりこの世に目を留めてしまうと、悪者の栄えが見えてしまうのです。

73:4 彼らの死には、苦痛がなく、彼らのからだは、あぶらぎっているからだ。73:5 人々が苦勞するとき、彼らはそうではなく、ほかの人のように打たれない。73:6 それゆえ、高慢が彼らの首飾りとなり、暴虐の着物が彼らをおおっている。73:7 彼らの目は脂肪でふくらみ、心の思いはあふれ出る。73:8 彼らはあざけり、悪意をもって語り、高い所からしいたげを告げる。73:9 彼らはその口を天にすえ、その舌は地を歩き巡る。73:10 それゆえ、その民は、ここに帰り、豊かな水は、彼らによって飲み干された。73:11 こうして彼らは言う。「どうして神が知ろうか。いと高き方に知識があろうか。」73:12 見よ。悪者とは、このようなものだ。彼らはいつまでも安らかで、富を増している。

この詩篇を書いた時点で、アサフはおそらく老年にいるか、病を患っていたと考えられます。26

節に「この身とこの心とは尽き果てましょう」とあるので、彼の体に痛みが走っていたと考えられます。ですからなおさらのこと、悪事を働いているのに健康体でいる人たちに目が行ったのではないのでしょうか。私たちが辛い状況にある時に、そのような状況にいない不信者の姿が目に入ってきます。信じていないのに、なんでそのように健康体でいられるのか？問題なく生活できているのか？とってしまうのです。

### 2C 空しい奉仕 13-16

73:13 確かに私は、むなしく心をきよめ、手を洗って、きよくしたのだ。73:14 私は一日中打たれどおしで、朝ごとに責められた。73:15 もしも私が、「このままを述べよう。」と言ったなら、確かに私は、あなたの子らの世代の者を裏切ったことだろう。73:16 私は、これを知ろうと思ひ巡らしたが、それは、私の目には、苦役であった。

私たちが信仰的に後退すると、信仰生活自体が苦痛になってきます。ただ自分の罪責感を積み上げるような生活になってしまうからです。なぜ教会に来ているのかが分かりません。だったら、世の中で普通に暮らしていたほうがよっぽど楽ではないか、と思います。そしてアサフが今の自分の気持ちを話してしまったら、裏切ってしまうだろうと言っていますが、そうですね私も教会生活が辛かった時に、あれだけ辛いと思った職場生活のほうが楽に感じたことがあった時は、「これはやばい」と思ったものでした。

### 2B 聖所から見る最後 17-28

#### 1C 突如の滅び 17-20

73:17 私は、神の聖所にはいり、ついに、彼らの最後を悟った。73:18 まことに、あなたは彼らをすべりやすい所に置き、彼らを滅びに突き落とされます。73:19 まことに、彼らは、またたくまに滅ぼされ、突然の恐怖で滅ぼし尽くされましょう。73:20 目ざめの夢のように、主よ、あなたは、奮い立つとき、彼らの姿をさげすまれましょう。

神の聖所に入ることの重要性が分かります。私たちが礼拝を捧げることによって、ダビデと同じように、この地上の世界よりもその次の世界、神の国を見ることができるようになります。また、この地上の命よりも、その先の復活の命のを見ることが出来ます。ですから、私たちは賛美して、礼拝を捧げるのです。

#### 2C 終わりの栄光 21-28

73:21 私の心が苦しみ、私の内なる思いが突き刺されたとき、73:22 私は、愚かで、わきまえもなく、あなたの前で獣のようでした。73:23 しかし私は絶えずあなたとともにいました。あなたは私の右の手をしっかりとつかまえられました。73:24 あなたは、私をさとして導き、後には栄光のうちに受け入れてくださいましょう。73:25 天では、あなたのほかに、だれを持つことができましょう。地上では、あなたのほかに私はだれをも望みません。

主がおられれば、私には他に不要だという大胆な発言を、私たちは信仰をもってすることができます。

73:26 この身とこの心とは尽き果てましょう。しかし神はとこしえに私の心の岩、私の分の土地です。73:27 それゆえ、見よ。あなたから遠く離れている者は滅びます。あなたはあなたに不誠実な者をみな滅ぼされます。73:28 しかし私にとっては、神の近くにいることが、しあわせなのです。私は、神なる主を私の避け所とし、あなたのすべてのみわざを語り上げましょう。

アサフの心身はかなり衰えていたと考えられます。けれども、彼は主に頼り頼みました。再びパウロがこう言っています。「外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない重い永遠の栄光をもたらすきあらです。(2 コリント 4:17)」このことを実感したのでしょうか。そして、遠くにいたら滅び、近くにいたら幸せと言っています。ヘブル書 10 章 37 節以降にこう書いてあります。「『もうしばらくすれば、来るべき方が来られる。おそくなることはない。わたしの義人は信仰によって生きる。もし、恐れ退くなら、わたしのところは彼を喜ばない。』私たちは、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。」

#### **4A 聖所荒らし 74**

##### 74 アサフのマスキール

この詩篇は、おそらく紀元前 586 年のバビロン捕囚の時のことではないかと言われています。アサフの子孫が書いたのではないかと思います。エルサレムの神殿が敵の手によって荒らされました。アサフが聖所に入ることによって、主に立ち直りましたが、聖所そのものがなくなるというのは致命的です。その霊的暗黒の中にある時の呻く歌が 74 篇です。

##### 1B 贖われた民の虐げ 1-11

74:1 神よ。なぜ、いつまでも拒み、あなたの牧場の羊に御怒りを燃やされるのですか。74:2 どうか思い起こしてください。昔あなたが買い取られた、あなたの会衆、あなたのご自分のものである部族として贖われた民を。また、あなたがお住まいになったシオンの山を。74:3 永遠の廃墟に、あなたの足を向けてください。敵は聖所であらゆる害を加えています。74:4 あなたに敵対する者どもは、あなたの集会のただ中でほえたけり、おのれらの目じるしを、しるしとして掲げ、74:5 森の中で斧を振り上げるかのようです。74:6 そうして今や、手斧と槌で、聖所の彫り物をことごとく打ち砕き、74:7 あなたの聖所に火を放ち、あなたの御名の住まいを、その地まで汚しました。74:8 彼らは心の中で、「彼らを、ことごとく征服しよう。」と言い、国中の神の集会所をみな、焼き払いました。

エルサレムが敵によって完全に征服された様子です。敵の旗がエルサレムの町になびき、聖所はことごとく破壊されています。

そこでアサフの子孫が、今、イスラエルの民のために執り成しの祈りをささげています。イスラエルの民のことを、神の牧場の羊、昔、神が買い取られた、神の会衆、神ご自身の贖いの民として、主の前に言い述べています。どんな状況になっても、「私はこれこれである」と神の約束にしたがって、自己存在を確認したのです。思い出すに、私が大学生の時に一か月ほど、知らずに異端の教会に通ってしまった時のことです。その教えを受けた時に、三位一体が否定されて自分の頭の中で混乱が始まりました。その時に救いになった声がありました。「あなたは、それでも神の子供である。」まったく、状況はそうではないのに、自己存在、アイデンティティーを確認しました。

74:9 もう私たちのしるしは見られません。もはや預言者もいません。いつまでそうなのかを知っている者も、私たちの間にはいません。74:10 神よ。いつまで、仇はそしめるのでしょうか。敵は、永久に御名を侮るのでしょうか。74:11 なぜ、あなたは御手を、右の御手を、引っ込めておられるのですか。その手をふところから出して彼らを滅ぼし尽くしてください。

預言者はエルサレムにいなくなりました。ダニエルとエゼキエルはすでにバビロンにいます。エレミヤはエジプトに下りました。もはや、神のみことばを取り次ぐ人がなくなりました。だからアサフの子は、「いつまで、エルサレムがこのように荒らされているのか、その終わりを知る者がいなくなった。」と嘆いているのです。アモス書に、「見よ。その日が来る。…神である主の御告げ。…その日、わたしは、この地にききんを送る。パンのききんではない。水に渴くでもない。実に、主のことばを聞くことのききんである。(8:11)」とあります。物理的に何かが破壊されること以上に、もっと恐ろしいのは、主の御言葉が聞くことができなくなることです。この箇所であるように、「敵が永久に御名を侮るのか」と、これからの望み、将来における希望が見えなくなってしまう。

## 2B 昔における私の王 12-23

74:10 神よ。いつまで、仇はそしめるのでしょうか。敵は、永久に御名を侮るのでしょうか。74:11 なぜ、あなたは御手を、右の御手を、引っ込めておられるのですか。その手をふところから出して彼らを滅ぼし尽くしてください。74:12 確かに、神は、昔から私の王、地上のただ中で、救いのわざを行なわれる方です。74:13 あなたは、御力をもって海を分け、海の巨獣の頭を砕かれました。74:14 あなたは、レビヤタンの頭を打ち砕き、荒野の民のえじきとされました。74:15 あなたは泉と谷を切り開き、絶えず流れる川をからされました。74:16 昼はあなたのもの、夜もまたあなたのもの。あなたは月と太陽とを備えられました。74:17 あなたは地のすべての境を定め、夏と冬とを造られました。

聖所の約束は、ダビデにおいて与えられていました。主が、エルサレムに御名を置くと約束されて、ご自分の住まわれる所を一定にすることを約束されてきました。ところが、今、その聖所が焼打ちにあったのです。そこでアサフの子孫は、自分たちの存在意義を出エジプトに求めたのです。はるかにさかのぼって、出エジプトの時に主がしてくださったことは、主が真実な方ですから同じように助けてくださると信じていることができるのです。

13-14 節の海の巨獣レビヤタンについては、イスラエルが、分かれた紅海を渡り、エジプト軍が海の中に沈んだ時の出来事です。レビヤタンを滅ぼされたことをアサフは言っていますが、イザヤ書には「その日、主は、鋭い大きな強い剣で、逃げ惑う蛇レビヤタン、曲がりくねる蛇レビヤタンを罰し、海にいる竜を殺される。(27:1)」とあります。つまり、竜、蛇、海の巨獣はみな同じものを指しており、黙示録 12 章によれば、これは悪魔であることが分かります。エジプトの王パロを支配していたのは、悪魔です。そしてイスラエルを滅ぼそうとしていたエジプトは悪魔に突き動かされていたものでした。エジプトからの救いは、悪魔のよる滅びからの救いだったのです。そしてアサフは今、それを自分たちの民に当てはめているのです。

74:18 主よ。どうか、心に留めてください。敵がそしり、愚かな民が御名を侮っていることを。74:19 あなたの山鳩のいのちを獣に引き渡さないでください。あなたの悩む者たちのいのちを永久に忘れないでください。74:20 どうか、契約に目を留めてください。地の暗い所には暴虐が横行していますから。74:21 しいたげられる者が卑しめられて帰ることがなく、悩む者、貧しい者が御名をほめたたえますように。74:22 神よ。立ち上がり、あなたの言い分を立ててください。愚か者が一日中あなたをそしっていることを心に留めてください。74:23 あなたに敵対する者どもの声や、あなたに立ち向かう者どもの絶えずあげる叫びを、お忘れにならないでください。

神のことを知らない、神はいないとする異教徒のことを、「愚かな民」と呼んでいます。そして、契約とは、アブラハムとの契約のことでしょう。そして、今、虐げられている人がこれ以上虐げられることなく、帰還できるようにと祈っています。

これはまるで、イエス様ご自身が通られた道にさえ見えます。ローマ兵にあざけられ、神の身分であるのに関わらず、卑しめを受けられたイエス様のようなのです。バビロンによって神殿が滅ぼされたユダヤの民にとっては、自分たちの罪のためにそうなったのですが、イエス様はかえって私たちの罪のために、身代わりになってしなれました。イエス様は決してご自身の身分を忘れませんでした。父なる神にしがみついたのです。その特権を忘れませんでした。